

社団法人 工学院大学校友会 第120号 47巻第1号 平成11年4月

校友会報 120



(出雲大社)

KOGAKUIN UNIVERSITY

校友会報 120



(出雲大社)

KOGAKUIN UNIVERSITY

目次		
次の用意を周到に	聞き誤りの科学	お知らせ……………18
南雲 芳夫……………1	江袋 林蔵……………5	校友の皆様へ……………19
21世紀へ向かって前進する学園	学園だより	第13回全国大会(島根大会)のお知らせ……………21
北郷 薫……………2	長嶋 秀世……………9	
アドバンスト マテリアルス センターの	支部だより……………12	
完成と大学における研究活動の活性化	事務報告、予算、決算……………15	
鈴木 敏之……………3	総会開催のお知らせ……………17	



「次の用意を周到に」

校友会会長 南雲 芳夫

いろいろな人に会うときに、あちらこちらで花の噂を耳にしなが、今この御挨拶を書いています。皆様におかれてはご健勝のこと、喜びまた念じております。

変わらねばならない、と皆が思い、その努力を人々がそれぞれの場で傾けつつも、依然としてその先が見えてこないこの世情。しかし、桜は桜です。せめて、寒い冬から春へ、そして緑あふれる初夏を用意してくれるのですから、その自然の恵みに感謝し楽しもうではありませんか。

昨年の御挨拶にも記しましたように、校友会会長の任務に邁進しながらも、その仕事のまとまりをも私なりに考えております。学園が、その総力を挙げて取り組んでいる「5ヶ年計画——ジャンプ21」も4年目に入ります。八王子の新構想が予定通りに進むことを祈りたい。そして、私達校友をはじめとして、学園に関わるすべての人びとが、21世紀という新しい時代に立派に対応して貰いたい。校友各位や、理事の方々から戴いている御尽力に深謝申し上げると共に、この1年の更なる御協力をお願いするものです。

私達は、花を見て春だなど思う。陽射しの強さに初夏の訪れを感じる。しかし、桜や桃は暖かくなってから芽をふき花を開き葉を出すのではない。寒いうちにすでに用意をしている。冷たい土中で、根が近づく春の用意をしているのです。自然は何万年の経験の中から寒い冬の後には暖かい春が来ることを知った。名句にあるように「花開けば風雨多し、人生別離足る（ハナニアラシノタトエモアルゾヨ、サヨナラダケガジンセイダ）」ということも、とうに知っているのです。

しかし人間はどうなのだろうか。次を予測することを「実行」しているのだろうか。その時になって初めて、「用意が足りなかった。するべき準備をしておけばよかった」となるのが、例えば、私などの常ではあります。私のような経済人がいま学んでいることは、「商品は便利で安ければ売れる」という常識はもう常識ではない、ということです。「文化経済学」という学問があるそうですが、商品の文化的価値が大事な要素になってきているということです。工学院の技術に文化的な要素が添加されるというのは、いったいどういうことなのか、私には想像しにくいのですが、私達の学園には、そんなことぐらい既に十分に理解し、用意し、展望を開いていく人材が溢れているはずで、期待して已みません。

最後になりましたが、第13回全国大会の場で校友会・学園の発展を皆様と共に祈りたいと思っております。

下記の方々が、校友会の常任理事です。ご支援をお願いします。



総務担当副会長
恒松 良一



財務担当副会長
片岡 国幸



広報担当副会長
寺島 敬二



企画担当副会長
吉岡 陽一



事業担当副会長
杉山 助一



組織担当副会長
高木 雅行



総務部長
宮澤 正義



財務部長
渡辺征一郎



広報部長
太田 雅康



企画部長
山田 文昭



事業部長
谷口 宗彦



組織部長
松乃 迪夫

•ごあいさつ



21世紀へ向かって前進する学園

理事長 北郷 薫

校友の皆様方におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

時が経過する速さには驚くばかりです。本学園が創立100周年を迎えたのは昭和62年（1987年）であり、それから10年が経過して創立110周年を迎えた平成9年（1997年）から早くも2年が経過して、現在、私達は平成11年（1999年）の年代に入りました。あれほど、騒がれていた紀元2000年を、あと何か月かで迎えることとなります。

本学園の新宿校地再開発工事を起工したのは、丁度、学園創立100周年記念の年である昭和62年であり、全工事を完了したのが平成7年（1995年）でした。

従って、創立100周年を新宿旧校舎で迎えた私達は、創立110周年は、日本では最初のものであり、世界でも珍しい都心の高層棟新校舎で迎えることができました。この10年間に本学園が、この一大事業を完成したことは、何年かの余裕をもって、新しい21世紀へ向かって前進するための有力な拠点を築いたと言えます。

また、八王子校地においては平成9年度の文部省ハイテク・リサーチ・センター整備事業として認定された「工学院大学・総合研究所アドバンス ト マテリアルス センター」が平成10年4月か

ら活動しています。さらに、平成10年度中には、最新の工作機械を設置した「テクノ・クリエイティブ・センター」と、新しい「セミナーハウス・松風舎」が完成しました。

平成11年度には、八王子校地へ新教室棟が建設されることになっています。本年度は本学園が「学園5ヶ年計画—ジャンプ21」と名付けている計画（1996～2000年）の第4年目に入る年になります。

同計画の進捗度は「プロGRESSレポート」として、理事会より発表されていますが、同計画は大体において予定通りに進行しています。専門学校、附属高等学校、同中学校の整備も近く目に見えてくるでしょう。

どうか、校友の皆様方におかれましては、本学園の大学院、大学学部、専門学校、附属高等学校、同中学校に対して、これまで通り、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

本学園の校友の皆様方の社会における活躍を見ることが、私たち本学園の教職員ならびに在学・在校生にとりまして何よりも大きい喜びであります。

校友の皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



アドバンスト マテリアルス センターの完成と大学における 研究活動の活性化

機械工学科教授・総合研究所長
鈴木 敏之

総合研究所ニュースでも逐次ご報告致しましたように、文部省の「平成9年度ハイテクリサーチセンター整備事業」に採択されました。「工学院大学総合研究所アドバンスト マテリアルス センター」(以下AMCと略称)は、八王子キャンパスにおきまして、平成9年9月から研究棟の建築工事が行なわれておりましたが、予定通り平成10年3月末日で工事が完了致しました(写真)。

その後直ちに装置・機器等の搬入と調整にかかり、全面的な研究開始のめどがつけました平成10年7月9日には、内外の多くの関係者の方々をお招きして開所式を執り行いました。校友の皆様にも多数ご列席頂き、AMCの船出をお祝い頂きましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。当日は、お招きしました方々に、AMC内に設置されました最先端の研究用装置・機器と、行われております研究の実施状況をくまなくご覧頂くことができました。現在は付帯設備等の整備が若干残ってはおりますが、研究テーマを先端材料関係の3つのプロジェクトに絞ったことや、それらに必要な最新の装置・機器を集中して整えたこともあって、開所式直後から開始された研

究は、どのプロジェクトもエンジン全開に近い状態にあります。近い将来には多くの注目すべき研究成果が得られるものと期待しております。

次にAMCの具体的な内容、即ち研究棟の概要、設置された実験用設備・機器、各研究プロジェクトの内容、研究組織、そして研究予算について申し上げます。

まず研究棟の建物ですが、研究棟は平面図に示したように、鉄筋コンクリート造4階建てで、延床面積が2073㎡、1階は各プロジェクト共通の分析機器類が配置されており、2階がプロジェクト2の実験室、3階がプロジェクト1の実験室、そして4階がプロジェクト3の実験室となっております。

補助金により購入しました主要な研究用設備・機器は以下の8点です。

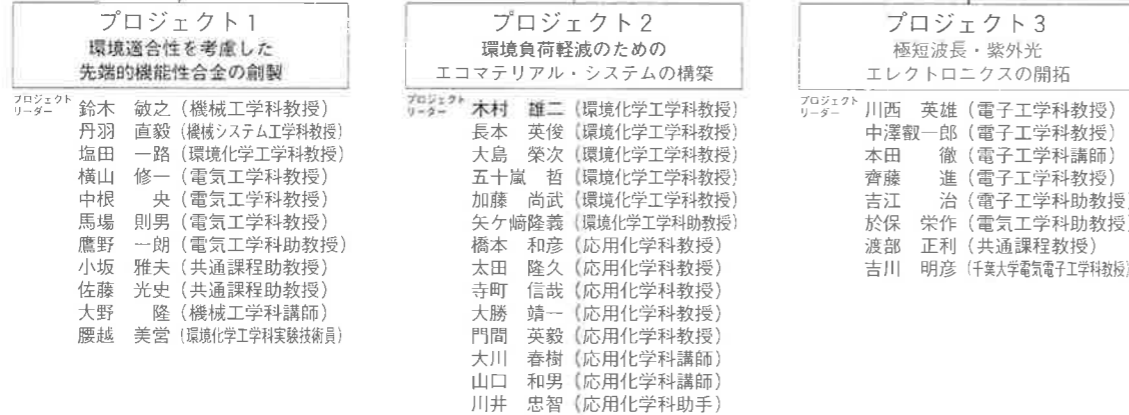
(研究装置)

- マルチプロセスコーティング装置
- 質量分析装置
- 半導体エピタキシャル成長装置
- 分子構造解析装置

組織図

代表者 大橋 秀雄 (大学学長)

総合研究所長・センター長 鈴木 敏之



(研究設備)

- 高真空材料試験装置
- 気体輸送法による合金合成装置
- エコマテリアル・システム解析装置
- レーザー顕微鏡

その他に、新宿校舎からAMCに移設した大型の装置や、ハイテクリサーチセンター関係以外の文部省からの補助金で購入したものが数点あります。

AMCで行われております研究内容をかいつまんで申し上げますと、AMCでは3つの研究開発プロジェクトを設け、5年の期間(平成13年度まで)で研究を行います。研究テーマは、

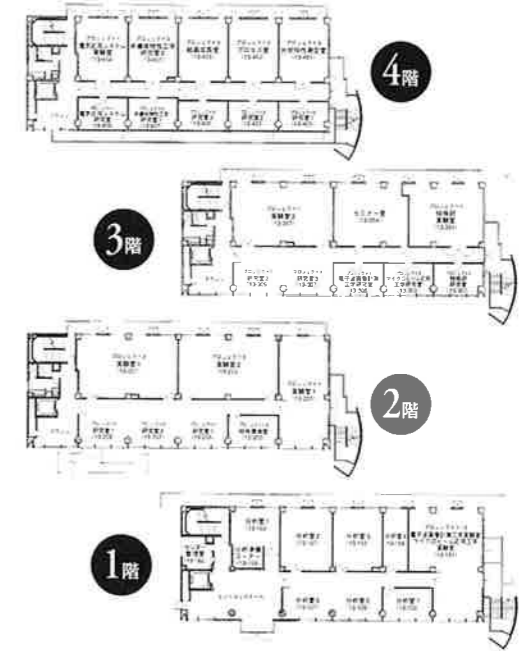
P-1が「環境適合性を考慮した先端機能性合金の創製」

P-2が「環境負荷軽減のためのエコマテリアル・システムの構築」

P-3が「極短波長・紫外光エレクトロニクスの開発」です。それぞれのプロジェクトの研究内容を要約しますと、P-1は、省エネルギー・省資源を実現するための高機能性合金の開発あるいは材料の高機能化、すなわち、過酷な環境に適応し得る先端高機能材料の創製、P-2は、環境負荷そのものを軽減する材料ならびに材料プロセス・システムの開発、すなわち、生分解性プラスチックなどのエコマテリアルの開発と、材料リサイクルのためのプロセス・システムの構築、P-3は、本学が独自に提案してきた(BAlGa)N多元混晶半導体による紫外線半導体レーザー素子の作製へ向けての要素技術の探索と確立、ということになります。

研究組織は、組織図のように大橋秀雄学長に研究組織を統括する代表者をお願いし、私がセンター長を務めております。プロジェクトメンバーの数は、3プロジェクト合計して33名です。なお、来年度からは、これに研究

経歴：1932年1月宮城県仙台市生まれ、1954年東北大学工学部金属工学科卒業、1957年科学技術庁金属材料技術研究所研究員、1988年工学院大学工学部生産機械工学科教授、現在は機械工学科教授、総合研究所長とアドバンスト マテリアルス センター長を兼務・日本熱処理技術協会副会長(1995~97)・科学技術庁第47回注目発明(1988)・日本熱処理技術協会賞「林賞」(1993~97)・著書「チタンのおはなし」日本規格協会(1995)ほか・論文「Control of Al Concentration on Ti Surface by means of Chemical Transportation Technique」Materials Science and Eng., A243 (1998)、「NiAl単相中における相互拡散」日本金属学会誌62巻8号(1998)ほか。



支援スタッフとして、リサーチアシスタントとポストドクターが数名加わる予定です。

最後に研究費について申し上げますと、補助事業の総額は約11億円ですが、その大部分は研究棟の建築費と研究用装置・機器の購入(平成9年度)にあてられ、平成10年度からは、3プロジェクト合計して、年間約2500万円の予算で研究が進められております。

以上述べましたAMCの概要は大学のホームページにも記載されております。アドレスは

<http://www.kogakuin.ac.jp/resarch/>です。さらに詳しい内容につきましては、パンフレット等が用意されておりますので、総合研究所へ直接ご連絡下さい。

何はともあれ、私が最も期待しておりますのは、これがきっかけとなって、大学内で行われております研究活動が大いに活性化されることでもあります。そして次の段階では、得られた多くの研究成果が我が国の産業の発展に少しでもお役に立つことでもあります。今後の研究活動にぜひご注目下さい。なお、来年の秋には研究成果の中間発表会とAMCの見学会を計画しております。いろいろなルートでご案内を差し上げる予定ですので、ご参加をお待ちしております。



聞き誤りの科学

足利工業大学
教授 江袋 林蔵

1. はじめに

父 明日は給料日だね、カズ君。
 祖母 そうですよ。(96歳・遠耳)
 父 お母さんよく知っていますね。
 祖母 知ってますよ！明日は民謡の日ですからね。
 父 民謡の日というと、どうして給料日なのですか？
 祖母 民謡の日は金曜日ですからね。
 父 ???！エート、給料日は金曜とは限りませんよ。
 祖母 どうして！あすは、金曜日で民謡の日ですよ。
 カズ 給料日と金曜日と間違えてるんですよ。
 わが家には97才になった陽気なおばあちゃんがいる、ときおりこんな会話が交わされます。おばあちゃんでもなくとも、親子でこんな会話も交わされます。
 娘 ……、お土産も買ってもらって、タンズいっぱい買ってもらって。
 母 ???！、タンズいっぱい何買ってもらったの？
 娘 やーだ、お母さん！淡水パールを買ってもらったのよ。
 一寸した聞き誤りが、とんでもない会話に発展しかかったのが前の例で、すぐに分かったのが後の例です。笑い話のようですが、なかなかどうし

てそうともいきません。
 会長 規制緩和による新規参入の動きは、カクカクしかじかでエ……
 部長 アノー途中で恐れ入りますが、新規産業と申し上げますと、どのような方面で？
 会長 ……、(何だこの男！)
 出世も逃しかねません。いろいろと大事な話の時などや笑い話ですませないようなときなど、問題でしょう。最近は音声入力がかきりと話題に上りますが、認識の誤りも問題になっています。これも聞き誤りの類のようです。
 さて、このような誤りがなぜおきるのか？も気になります。その前に、これを定量的に分析出来ないか、という問題があります。私は、いま、一生懸命この問題に取り組んでいます。というのは、音声入力は、大いに期待されているコンピュータ入力のもう一つの手段で、音声自動操船など産業用にはずいぶんと使われていますが、一般にはなかなか思うように普及しないからです。また、将来は、宇宙活動にも必要と思われるが、是非そのようになってほしいと思うからです。ここでは難しい話は抜きにして、その研究の一つ、人の聞き誤りの研究の現状をお話ししようと思います。

2. 誤りの生成要因

人の聞き誤りを研究しようとするとき、冒頭にあげたような会話を研究することになりますが、

これまでの工学的な知見の範囲ではなかなかとりつきようがありません。そこでこれまでの、認識工学の知識をフルに活用することの他、音声学の力を借り、また、新たな分析の手法を導入する事を考えます。それを要約すると次のようになります。

音声学的研究の範囲には、調音音声学、音響音声学、聴覚音声学の3領域があるといわれています。

イ. 発声側の誤り：音声学的原因はいろいろありますが、これをまとめて「言い誤り」としておきます。これらは次のように分類できます。

- (1) 感知する際の誤り。
- (2) 認識する際の誤り。
- (3) 発声の意志生成時の誤り。
- (4) 発声の誤り。(分節音-調音-や非分節音-高低・音調-などの誤り)

以上のような簡単なことからでも、そのほかの要因を定性的に考慮することが出来れば、「調音の誤りか否かを定量的に知る」だけでかなりの知見が得られそうなことが考えられます。

ロ. 環境・音響的要因：発声と受聴間にある「音響的環境」「騒音環境」「心理的環境」「生理的環境」があります。ここではこれらを捨象して考えます。

ハ. 受聴側の誤り：その要因はまたいろいろありますが、これを総称して単に「聞き誤り」としておきます。原因としては次のようなものが考えられます。

- (1) 受聴の誤り
- (2) 受聴した音(おん)を音(おと)として認識するときの誤り。
- (3) 受聴した音の意味を理解する時の誤り。
- (4) 理解した結果を出力することの誤り。

a. 書き損じ

b. 発声の誤り。(分節音-調音-や非分節音-高低・音調-などの誤り)

ここでも出力側の定量的な分析が可能であればかなりのことが分かりそうな気がします。

ニ. その他：例えば、データ整理上の誤り等。たとえば、ディクテーションなどのデータ整理をする際、60歳以上の高齢者の方の書き記したものを、20歳ぐらいの学生が誤りチェックをすると、「ジュース-ジュース」「ケンキウ-ケンキウ」といった類の書取りを、そんなことはないのですが、誤りとしてしまいます。新旧交代の時を思い知らされます。

何れにせよ、以上のようなことは、それぞれにそれぞれの分野でかなりの専門的な研究がなされていて、網羅的に取り組む術もありませんが、上述のように、イ. 発声側の誤り、や ハ. 受聴側の誤りにおける、発声や書取りといった「人の出力の形態」を定量的に調べることがかなり重要な事であるように思われます。

3. 定量化の方法

きわめて簡単なことです。ローマ字綴りは、いささかの問題はありますが、大雑把に言って人の発声の音素の綴りになっています。この音素の違いがいくつあるかを数えれば、一対の単語の相異を記述できます。このような定量化の方法を相異度法と言っています。例えば、「山/川」は、「YAMA/KAWA」で、それぞれの音素の数の差は0、相互に異なる音素は、YとK、MとWで、その数は2です。そこでこれを[0, 2]と書き表して「相異度がゼロニイである」と言っています。この場合、全体の音素数の差は、0+2=2となりこれを「相異度指標が2である」といいます。統計的に、相異度指標が2以下の誤りが5~6割を占め、相異度指標が3~5でほぼ残り4割ほど、6を越えてもあることはあるのですが、

大変に少なくなることが実験により確かめられております。調音というのは、例えば、子音の場合ですと、口の中だけで舌の先を跳ねたり摩擦したりして顎をほとんど使わずに発声するようにして音を整えるようなことを言います。ローマ字の「T」とか「K」などはこのようにして子音の調音をするように指示するもの、「A」とか「E」などは、顎を動かして子音よりは大きく口を動かす形の母音の発声を指示する記号であります。日本語の発声の特徴は、この子音と母音の組み合わせが規則的であると言うところにあります。相異度法の計算則には、このような言語的な特徴を組み入れるようにして、現在の訓令式ローマ字表記法にいささか手を加えております。

以下に、事例に則して断片的ではありますがその分析法の一端を見てみましょう。

4. 言い誤り

放送番組での例：

*匿名希望のお手紙を読んで、「名古屋のトクベエさん有り難うございました！」

*ダニエラが「わたしはごはんをアシで食べます」イタリアの人は、H音が苦手とのことでした。

*森本タケロウ：すごいですねー、(食管法を)税金と間違える。「街頭で：食管法って何ですか？道行く人、直間法？直接税と間接税の比率ですか？……イヤー！さすがに尺貫法と間違える人はいませんでした」

トクベエさんの例は、相異度指標が1、ダニエラの場合も1、森本タケロウの場合は、1と2というように計算され定量化されます。つまり、相異度指標が1ということは、音素が一つですので、現象的には調音上の誤りかもしれない？、というところから分析が始まります。相異度指標が2というのは、音節の誤りとなり、明らかに調音を含めた他の要因も考えられます。

5. 言い換え

森本タケロウの、食管法／直間法／尺貫法のうちの尺貫法といったケースがこれに当たります。「電池創造」や「健康乳良児」という広告がありました。これがこれもそうです。落語の落ちの「甲府イー、お参り願ほどき」というのも、ドリフの「変わらぬ仲間、変わらぬ瓦という」のもそうです。だいたい1音節の入れ替え、つまり相異度指標が2くらいで、少し気付かれて、オヤと思わせ洒落た余韻を引くような構文にするというのが言い換えのコツでしょうか、これが相異度指標2位の効果のところ。仲間と瓦は、母音(響き)が皆同じで子音による相異度指標の値が3です。つまり、響きをベースに利かせ、その上に乗せるようにして日本語の構成をうまく利用したドリフの演技が効果を引き出しています。これらのようなところから、コマーシャルや落語での言い換えをするというのは、意外性とアトラクティブな効果で印象付けを狙っていると考えられます。

6. 聞き誤り

会社での伝言メモを見てみましょう。

*イケガイキイン筑波支社の…さんより…：

イケガイキハンの誤り。 [相異度指標2]

*ミツハラ様より電話あり：

ミツハタ様の誤り。 [1]

*金沢大学の誰それ様より電話：

神奈川大学 [1]

*研修所チョウム部長様より…：

総務部長。 [2]

挙げればきりがありません。これらも相異度の低いところでの誤りです。いずれも、確りとメモされていますので、確信犯的な誤りで、明らかに認識の誤りといえましょう。低相異度領域で起こりがちなものと見てよいようです。この他に、参入を産業と聞き誤ったケースなどは、相異度指標

が3で、いささか念が入っていて単純な誤りとは言えないようです。聞き取った単語を、自分の「文脈」に組み込めなかったケースで、上司からは、「職務上必要な文脈が頭に組み込まれていない」といった不信感をもたれる原因になります。会話とは恐ろしいものです。

7. 形態的な誤りと心理的な誤り

誤りを見ると、低相異度領域における単純なものと同相異度の高い方での複雑なものがあります。前者は相異度という範疇での形態的あやまり、後者は、様々な要因からなる心理的な誤りと見ることが出来ます。

このようなケースを見回して、およそ冒頭のおばあちゃんや淡水パールの会話例が理解できるのではないかと思います。給料日と金曜日は、相異度的には小さくありませんので、単純な聞き誤り、と言うよりは思い違いとでも言いましょうか、頭に組み込まれている文脈上の問題と見られます。何の根拠もないのですが、一応、「いささか自己主張を強くする」とこのような誤り、「気が小さい」と上の部長さんのような誤りの形になると考えてみては如何でしょうか。こうなると心理的な誤りと見てよいのかもしれませんが。

さりげない日常会話の中から、非常に単純ではありますが、筋道を立てる手がかりがあると何か

が見えてきて、思考を深めることが出来る、と言うことを見てきました。一見関係がないように見えますが、このような研究は、音声認識装置の使う側から見た研究と改良に有用であることがその後の研究で分かってきました。これからは、工学部でも、現場での実用研究を組織的にを行い、これを教育に取り入れていく事がより一層要求されるようになると思います。

8. 聞き誤りの科学

ユークリッド原論の第1巻定義の1. は、「点とは部分を持たないものである」、というものです。誰にでも直ぐに認められるような単純な立論で始まるこの議論は、理解しがたいような複雑な事象を簡明に解き明かす働きをして、我々人類に限りない恩恵をもたらしてくれました。しかし、このような単純な定義に到るにはどれほどの思索が重ねられたことでしょうか。科学というのはこのようなことを言うのではないかと思っています。相異度法の理論は、機械認識の検証に始まり、このように人の聞き誤りを分析できるところまでできました。しかし、まだまだ思索を重ねているような状態で、とてもユークリッドのような所までは行き着きません。道遠しというところです。ご清読有り難うございました。

略歴：昭和35年3月、本学2部電気工学科卒業：卒業研究「不連続制御系の近似最適解」(特許)。

昭和53年10月、「色検知装置他4件」の発明に対し発明奨励賞受賞。

平成元年3月、「音声入力システムの性能評価法」(相異度法)の研究に対し本学より博士学位授与される。

平成2年上記研究に対し、科学技術庁長官賞受賞

昭和32年～昭和63年日本電気(株)勤務：研究所～産業オートメーション事業部技術部長～技師長、本社C&Cセンサー総合開発本部長。

昭和63年日本電気精機(株)技師長～顧問、その間、社長了解の下に、工学院大学及び足利工業大学非常勤講師勤務、平成8年足利工業大学経営工学科教授、大学院ではマンマシンシステムを担当。

*現在：同学経営情報工学科教授、本学非常勤講師、日本人間工学会評議員、日本感性教育学会企画推進部会長、本学博新会会長。

*現在の研究領域：人と機械を対象とした音声の認識誤り(相異度法)、システムエルゴノミクス(マクロロジック法)、感性教育。

*趣味：書道、日本画、園芸(菊)。



21世紀へ向けての学園

学務・企画担当常務理事・八王子管理長・

電子工学科教授 長嶋 秀世

(肩書きは平成10年3月現在のもの)

卒業生の皆様にはいかがお過ごしのことでしょうか。平成大不況で日本中が厳しい状況にあります。学校経営においても同様で、就学人口の減少により冬の時代とも言われています。この先も人口の減少は続きますので、教育産業のみならず、住宅、電気機器産業など内需に依存する産業はデフレ傾向になるものと思われます。学園も存続をかけて懸命の努力をしております。ここでは、平成10年度に行われた行事や新しい建物についてご報告します。

法人

平成10年10月1日に、学園広報を効率的に運営し、充実させるため、企画部を改組し広報部を新設しました。広報部は学園広報誌「窓」、学生募集を行う「CITY」などをはじめとして学園内のすべての広報誌を発行し、速報性のあるホームページの管理運営を行います。広報部では「理科教室」、「理科論文」の大きな広報業務を行っていることは知られていますが、そのほか、関東近隣の各市町村に対し「出張講座」を行っています。これらは学園が地域社会に対し学術的な貢献を果たすとともに、工学院大学とその関連校についてよく知ってもらうことにあります。平成11年度からは、前述の教育委員会向けに行っている「出張講座」を高校向けにも拡大する予定です。

財政面についてはこれまで校友会報では書きませんでした。今回は経理の資料に基づき簡単に述べます。本学園は、いま新しい建物を次々と建てていますがこれは新宿校舎の建設資金の残りであり、さらに、教室棟、体育館の建設まではこの資金があります。しかし、この後

はお金を貯めないと新しい建物を建設することができません。そこで、補助金、寄付金を含む学園の総収入（これを帰属収入と言う）に対する貯蓄高（これを基本金組入額と言う）を基本金組入率と言います。この基本金組入れは将来の建物や教育研究機器備品への投資を行うためのもので、将来を制するものです。この値が小さいと将来が危ういということになります。本学園の平成9年度の基本金組入率は10.9%で、私大平均18.7%より大きく下回っています。このように、基本金組入率が極端に低いのも本学園の特徴です。現在は、無駄な支出や人件費の抑制を行い、消費支出比率を改善することにより、15%の組入を確保できるように努力をしています。消費支出比率はこの1-2年やや改善の方向に向かっています。

大学

平成10年度中の主なできごとについて以下、箇条書きに述べます。

- ◆情報工学科、建築都市デザイン学科の2学科の新設：平成10年12月22日に文部省より、かねてから申請中の前記2学科を増設することが認可され、平成11年度より開設されます。入学定員は情報工学科80人、建築都市デザイン学科60人ですが、平成11年度までの期間付き入学定員（臨定と言う）は、情報工学科40人、建築都市デザイン学科は10人で、これがそれぞれ加えられます（窓の4月号に詳細を載せてあります）。
- ◆学芸員養成課程の開設：博物館の学芸員の資格が取れる制度を平成11年度より発足します。
- ◆副学長制度導入：平成11年度から副学長が設けられま

す。副学長の職務は、学長を補佐し、必要に応じて学長の職務を代理することであると規定には書かれています。

◆アドバンスト マテリアルス センター開設：すでにお知らせしてある文部省の補助金によって建てられた研究施設が開設されました（写真1）。

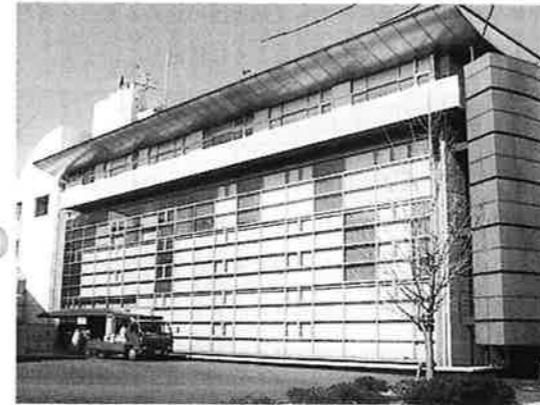


写真1

◆「セミナーハウス松風舎」竣工：大学後援会からの寄付金に学園の資金を加え、老朽化していた松風舎を建て替えました。この建物は、10畳の部屋が8室、60㎡のセミナー室が1室で構成されています。平成11年度から学生・教職員が利用できます（写真2）。



写真2

◆TECC（テクノ クリエーション センター）竣工：最新の工作機械を収めるTECCがC校舎の横に、平成11年1月19日に竣工しました。建物延面積は約300㎡、一部2階建てになっています（写真3）。

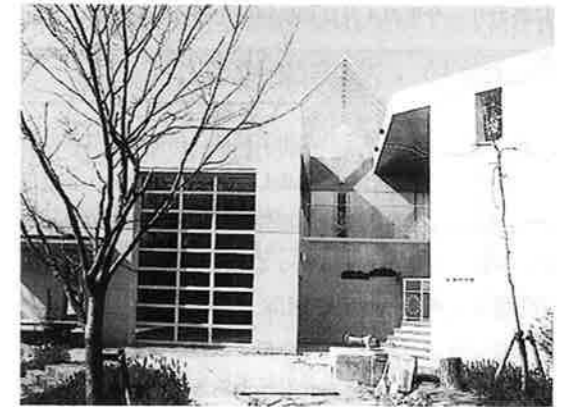


写真3

◆学生用駐車場の新設：八王子校舎に居る大学院生・卒論生、学部学生のうち自動車を利用している学生のために100台の乗用車が駐車できる駐車場を作りました。

◆教室等のマルチメディア化促進：文部省の補助金により54教室がマルチメディア化されました。新宿校舎はA0312のほか21教室・セミナー室3室・会議室8室、八王子校舎は教室26教室・セミナー室4室・製図室1室・会議室1室などとなっています。

◆新宿校舎学生ホールの拡張：新宿校舎にいられた方はすでに気が付かれたかとおもいますが、地下1階の学生ホールが拡張されました。これも学生サービスの一環です。

将来構想

◆新学部、新学科の開設の検討：新しい学部開設の可能性を探り、単科大学からの脱皮をはかり、幅広い応募者を見込んでいます。さらに既存学科の改編によって魅力ある新学科に再編する作業を開始します。新学科開設は平成14年度、新学部開設は平成15年度を目標としています。

◆八王子校舎に新教室棟：新教室棟は、延べ面積4,000㎡で、情報演習室70人×4室、教室80人×3室、120人×3室、180人1室、ゼミ室20人×3室、学生ラウンジからなります。建てられる場所は体育館の北側で道路と体育館に面してL字型になっています。基本設計はすで

に終わり、今年の4月には地鎮祭を行う予定です。

中学校・高等学校

平成8年度に設置された中学校は、今年度で最初の卒業生を送り出すことになりました。このなかで、8割以上の生徒は工学院大学付属高等学校に進学するので、平成11年度より学年進行に伴って高校の一部で中高一貫教育を実施することになりました。

高等学校は、工学院大学への多数の進学志望者の期待に充分に応え、また多様化しつつある生徒の進路志望に対応するため、中高一貫教育の整備・充実とともに、従来の高等学校教育の、より一層の充実を目指しています。

現在の社会情勢から、男女共学制への移行についても早急に取り組み、学校五日制や新学習指導要領下における特色ある教育の検討を行います。

いま、中学校・高等学校校舎の建設を予定し、資金の積み立てを始めています。

専門学校

本校は、前身の工手学校設立当時から、職業人の実践教育を主眼にしてきました。近く大学全入時代を迎えるという状況より、旧来の工業系専門学校の枠組みを変え、若者の動向、社会のニーズにあった分野で、地の利を活かした生涯教育を行う機関とします。このためには、教育を担っている教員の研修・研鑽を行う必要があります。

◆夜間部卒業式第200回記念行事：今年度は専門学校夜間部の卒業式が創立以来200回を迎えます。この祝賀行事を行います。

◆学科再編成計画

専門学校内に学科検討委員会を設置して、学科再編成等の検討に着手しました。産業界の動向に合わせて、学科の変更が簡単にできるのが専修学校設置基準の特徴です。工業技術の実践的教育を目標に、志願者動向、教員配置等を考慮しながら、学科の新設・改廃に慎重に取り組みます。

夜間部については、大学卒業生や専門学校卒業生等を対象に、産学で協同してレベルの高い付帯教育を展開する予定です。入学者の減少は避けようもない状況にあり、夜間部継続の規模等、経営指針策定が課題です。

◆専修学校の専門課程の修了者の大学への編入学等
専修学校の専門課程のうち文部大臣の定める基準を満たした者は大学に編入学できるように検討しています。

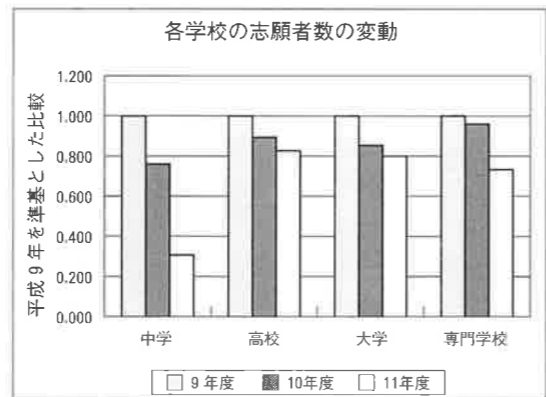
各学校の年度別志願者数

各学校の年度別志願者数を表1に、その推移のグラフを図1に示します。各校とも少子化傾向と言われる就学人口の減少により苦戦していますが、中学校は校長、教頭の交代が理解されずに志願者が著しく減少しています。

表1 各学校の年度別志願者数の推移

	中 学	高 校	大 学	専門学校
9年度	559	845	11,785	493
10年度	428	755	9,933	466
11年度	180	686	9,365	369

専門学校の11年度分は途中経過で、3月31日まで入試があります。



社会人大学院制度

働きながら大学院で修士、博士をめざしませんか。詳細は19ページをご覧ください。

●支部だより

昨年に引き続き、平成10年度の全国支部の活動も概ね活発に推移しております。1月現在全国58支部中、37支部において総会が開催され、延べ約900名の校友が参加され親睦を深められました。また、永らくお休みをしていた埼玉中央支部と、石川県支部が活動を再開されました。

校友会活動は、私たち学園OBの親睦活動であると同時に、学園に在籍する後輩を含め、若い会員への数少ない支援活動の場でもあります。一層の若い会員の参加促進と将来活動を担って頂く若手会員の育成が全支部共通の課題と考えます。その意味で、支部活動を単なる年一回の宴会で終わらせるだけでなく、釣、俳句、見学、旅行、花見、等々家族ぐるみで楽しめる会として発展されている支部も増えてきており、今後の発展が期待されます。

支部活動の活性化に日夜ご努力頂いている支部長様をはじめ、幹事の皆様には誠に頭の下がる思いです。本年も皆様のご健康と一層のご活躍を祈念する次第です。

組織部部长 松為 迪夫

平成10年度支部総会開催状況 (99年2月末日現在)

4月12日	山口県支部	7月5日	千葉県支部
5月9日	鳥根県支部	7月11日	東京中野支部、鳥取県支部
5月10日	愛知県支部	7月25日	山形県支部、新宿支部
5月23日	岩手県支部	9月6日	静岡県支部
5月24日	広島県支部	9月11日	日本電気支部
5月31日	栃木県支部	9月12日	北海道支部
6月4日	大阪支部	9月18日	兵庫県支部
6月6日	埼玉県西支部	9月27日	東京支部
6月7日	埼玉県中央	10月17日	群馬県支部
6月13日	宮城県支部、京滋支部	10月24日	青森県支部、新潟県支部
6月19日	山梨県支部	11月20日	沖縄県支部
6月27日	高知県支部	11月28日	福島県支部
6月28日	熊本県支部	11月29日	石川県支部
7月3日	東芝支部	12月4日	長崎県支部
7月4日	川崎支部、横浜支部、湘南支部、相模支部、西湘支部		

平成11年度支部総会開催予定 (99年2月末日現在)

支部名称	月日	開催場所	支部名称	月日	開催場所
山口県支部	4月18日(日)	萩本陣	神奈川県下5支部	7月3日(土)	キリン横浜ビアレッジ
鳥根県支部	4月18日(日)	斐川町社会教育センター	千葉県支部	7月4日(日)	ホテルニューツカモト
愛知県支部	5月9日(日)	愛知県支部	東京新宿支部	7月10日(土)	新宿校舎第3会議室
鳥取県支部	5月15日(土)	鳥取市	大阪支部	7月10日(土)	東洋ホテル
広島県支部	5月16日(日)	広島市ますみ	山形県支部	7月	オーヌマホテル
岩手県支部	5月22日(土)	盛岡労働福祉会館	静岡県支部	9月5日(日)	名鉄ホテル
栃木県支部	5月23日(日)	ホテルニューイタヤ	北海道支部	9月11日(土)	三川屋会館
埼玉県中央支部	6月5日(土)	大宮市民会館	青森県支部	9月25日(土)	奥入瀬溪流入口焼山
東京八南支部	6月13日(日)	八王子労政会館	大分県支部	9月25日(土)	大分市割烹いそよし
東京中野支部	6月中旬		東京支部	10月10日(日)	新宿校舎
山梨県支部	6月18日(金)	紫玉苑	福島県支部	10月16日(土)	日立クレジット 研修所猪水荘
宮城県支部	6月19日(土)	東北電気会館	新潟県支部	11月3日(祝)	月岡温泉 清風苑
埼玉県西支部	6月20日(日)	東松山 紫雲閣	長野県支部	11月23日(祝)	長野市
高知県支部	6月26日(土)	魚竹	沖縄県支部	11月19日(金)	パシフィックホテル
熊本県支部	6月27日(日)	産業文化会館	京滋支部	12月4日(土)	京都市法華クラブ
東芝支部	7月2日(金)	新宿校舎第4会議室			